



黎明館「西郷どん」展は、平成30年NHK大河ドラマ「西郷どん」の放送に関連して、ドラマの登場人物に関係する文化財や歴史資料を通じ、主人公である西郷隆盛ゆかりの地の歴史や文化を紹介する展覧会です。

明治維新の英雄である西郷には、肖像写真が一枚も残っておらず、その生涯は未だに謎に包まれています。薩摩藩の下級藩士の家に生まれた西郷は、両親を早くに亡くし、家計を支えるために農政の役人補佐として働き始めます。やがて、藩主の島津斉彬に抜擢された西郷は、斉彬の密命をおび、江戸や京を奔走し、薩摩を代表する人物へと成長していきました。

多感な青年期を経て、三度の結婚、二度の離島での生活ののち、一介の薩摩藩士に過ぎなかった西郷は、勝海舟、坂本龍馬らの人物たちと出会い、やがて「革命家」へと変貌し、倒幕の大きな原動力となります。類い希なる「勇気」「決断力」「実行力」で、明治維新を成し遂げた西郷ですが、その最期は、明治政府と戦い、命を散らすこととなりました。

本展においては、西郷の生涯と、彼を取り巻く維新の群像について、節目となる歴史的な出来事を中心に、激動の時代をリアルに感じることが出来る資料、西郷本人ゆかりの品々を紹介していきます。

西郷と薩摩

西郷隆盛は文政十(一八二七)年、鹿児島(鶴丸)城下に生まれました。ここでは、西郷の肖像や当時の城下に関する資料を展示します。また、西郷を育んだ幕末薩摩の文化や風土も併せて紹介します。

城山陥落の前夜に弾奏されたといわれる琵琶



鹿児島の洋画家が描く桜島の風景



第一章 船出

嘉永六(一八五三)年のペリー来航は、西郷の人生に大きな変化をもたらします。本章では、斉彬に見い出された西郷が、篤姫(天璋院)の婚礼実現や將軍継嗣問題に関わる中で、徐々にその存在が知られていった経緯などについて紹介します。

子孫繁栄と家族の幸せを願う吉祥文



天璋院所用掛軸(紅縮緬地に鶏文様) (公益財団法人徳川記念財団)

始まりは薩摩 本物の舞台へいざ!

第一章 流転

斉彬の死後、西郷は二度の離島生活を余儀なくされるなど、苦難の時期を過ごします。本章では、西郷が過ごした奄美大島・沖永良部島での日々や、西郷不在の中でますます混迷を深めていった政局について紹介します。

西郷が沖永良部島で自作したと伝わる疑似餌

伝西郷隆盛使用酒器 (奄美市立奄美博物館)



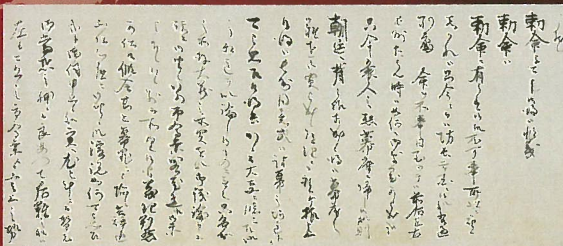
薩摩烏賊餌木(山形・公益財団法人荘内南洲会)

西郷が島の恩人に贈った舟徳利

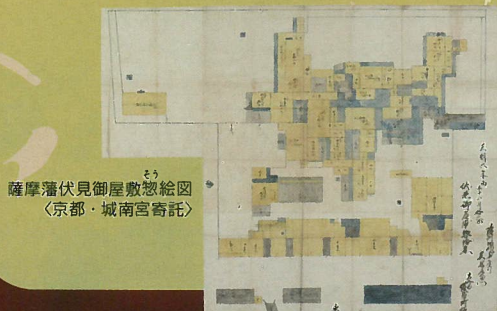
第二章 飛翔

遠島処分から復帰後、すぐに西郷は禁門の変や第一次長州征討などの重要な事件に薩摩藩を代表して関与していきます。本章では、薩長同盟から大政奉還、王政復古の政変に至るまで常に政局の中心で重要な役割を果たし、新しい時代の幕開けに大きく貢献した西郷の業績を紹介します。

大久保曰く「非義の勅命は勅命にあらず」 篤姫が立ち寄り、坂本龍馬を匿った伏見屋敷の図



西郷隆盛宛 大久保利通書状(部分) 慶応元(1865)年9月23日付 重要文化財、大久保利通関係資料(国立歴史民俗博物館)



薩摩藩伏見御屋敷惣絵図 (京都・城南宮寄託)

第四章 英雄

江戸無血開城を実現した後、一度鹿児島に戻った西郷は、新政府からの再三の出仕要請により、出仕と帰郷を繰り返しましたが、再び政界に復帰して薩摩置県などの改革に尽力します。しかし、朝鮮をめぐる外交問題で盟友の大久保利通と袂を分かち、再び鹿児島に戻った西郷は、西南戦争の勃発によって命を散らすこととなりました。本章では、西郷と大久保の二人の英雄が最期を迎えるまでの道程を紹介します。

西郷が犬を預かる代わりに贈った刀装具

「西郷どん」展 初公開



西郷隆盛所用刀装具(線頭、目貫) (個人蔵)

天を敬い人を愛す



書「敬天愛人」西郷隆盛筆 鶴岡市指定文化財 (個人蔵)

※一部、資料の展示替えがございます。